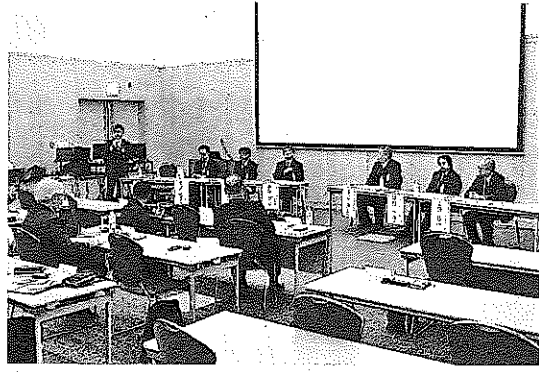


# 官民連携、DXの可能性探る

## インフラメンテ国民会議九州 ピッチイベント

### 自治体維持管理で議論深化

インフラメンテナンステナンス国民会議九州フォーラム（フォーラムリーター・日野伸一九州大学名誉教授）は12日、福岡市内で第8回ピッチイベントを開催した。基調講演やパネルディスカッション、写真展等を展開し、これまでの活動実績やインフラDX等の新技術情報などを踏まえながら、産学官の関係者が、改めて地方自治体のインフラメンテナンスの課題や今後の在り方等を探った。



さんともにも考えていきたい。森戸局長は「本日のフォーラムを契機に、さらなる産学官の連携が図られ、インフラの戦略的な維持管理更新等の推進、安心・安全な国民生活の確保、メンテナンズ産業の発展につながることを祈念している」とした。

今回のイベントテーマは「インフラメンテナンズの新たなステージの取り組みと未来への継承」。プログラムは2部構成で、第一部では国土交通省の総合政策局の金井仁志インフラ情報・環境企画調整官、および道路局の和田賢哉道路メンテナンズ企画室長が基調講演を行った。

第二部のパネルディスカッションでは「維持管

理の未来像と自治体の悩み」を包括的民間委託と新技術」と題し、各パネルがそれぞれの所属組織の取り組み等を紹介。その上で、インフラメンテナンズに関する課題やPFI方式等の官民連携事業、DX等の新技術の進展状況などに関する情報交換した。

パネラーのうち、長崎市中心総合事務所の森尾宣紀氏は、街路樹や公園の剪定等の業務を3年契約によるプロポーザル方式に切り替えた事例を報告。業務を進めていく上で、委託業務の設定範囲などで改善すべき点も見られたことを紹介した。

杵築市上下水道課の平田勝宏主幹は、市の事業規模として土木費は約13億円程度であり、さらに道路・橋梁関係の事業費は3億円程度に過ぎず、民間が利益を出しにくい

状況にあることなどを説明。「このような予算規模の中、インフラメンテナンズで官民連携事業を模索した場合、応じるような企業があるのだろうか」と懸念を示した。

この平田氏の意見に関して、前田建設工業や前田道路などの共同持ち株会社であるインフロニア・ホールディングス（株）の坂部一誠社長が、官民連携事業に対する企業側からの視点等について回答。PFIやコンセッション等の数多くの経験、実績を踏まえた上で、予算の規模は問題ではないと指摘、「仕様発注ではなく、性能発注を徹底してもらうことで、

民間はコスト削減も図りやすくなる。予算ではなく、民間に任せる部分を如何に大きくするのが重要だ」とした。

（株）オービットの上田祐一郎氏は、橋梁点検等において小規模な場合はローテク（近接目視）で行った方が、効率的な場合も多くあるとし、「小規模橋梁や舗装で、新技術活用が有効と想定される事例を示すことが必要」などとする見解を提示。併せてAIを活用した橋梁点検・診断支援システムや、画像解析によるひびわれ自動検出技術などを紹介した。

各パネラーの発表を踏まえて、進行役を務めた（一社）ツタワルドボクの福島邦治副会長は「DXを行うためには、立場を超えた連携と挑戦を」「官民連携の取り組み事例を増やして、水平展開が必要だ」などと、この日の議論を総括した。

第8回ピッチイベントは、福岡市博多区の福岡国際会場とWEB方式により開かれ、九州各地の自治体や建設会社、建設コンサルタントの関係者など約440人が参加、視聴した。

冒頭、日野フォーラムリーターと九州地方整備局の森戸義貴局長があいさつ。日野氏は、8回目となるピッチイベントについて「これまでの活動を振り返るとともに、自治体のインフラメンテナンズの課題と解決策を皆

冒頭、日野フォーラムリーターと九州地方整備局の森戸義貴局長があいさつ。日野氏は、8回目となるピッチイベントについて「これまでの活動を振り返るとともに、自治体のインフラメンテナンズの課題と解決策を皆

冒頭、日野フォーラムリーターと九州地方整備局の森戸義貴局長があいさつ。日野氏は、8回目となるピッチイベントについて「これまでの活動を振り返るとともに、自治体のインフラメンテナンズの課題と解決策を皆

冒頭、日野フォーラムリーターと九州地方整備局の森戸義貴局長があいさつ。日野氏は、8回目となるピッチイベントについて「これまでの活動を振り返るとともに、自治体のインフラメンテナンズの課題と解決策を皆

冒頭、日野フォーラムリーターと九州地方整備局の森戸義貴局長があいさつ。日野氏は、8回目となるピッチイベントについて「これまでの活動を振り返るとともに、自治体のインフラメンテナンズの課題と解決策を皆